

加工食品事業におけるサステナビリティ

注力分野	目指す姿	中期取り組み目標 (KPI)	各目標に対する進捗	関連するSDGs
お客様の期待を上回る製品・サービスの提供	私たちは、品質と技術に拘った製品を通じてお客様ニーズに応え続け、満足と信頼を獲得します。	Quality of Life (QOL) の向上 多様化するお客様のニーズを捉え、“健康” “利便性” “多様性”などを追求した、付加価値の高い製品の開発、提供を目指します。	調理・喫食に食器を必要としない冷凍食品や、手軽に本格的な調理香を付与できる調味料など、簡便性の高い製品を計11品発売しました。また、糖質オフや高たんぱくなどお客様の健康志向にお応えする製品を計6品発売しました。 2022年には特定の食材や成分を使わずに本格的な味わいが楽しめる新しいカテゴリーのテスト展開を実施し、2023年1月よりBEYOND FREEというカテゴリーブランド名にて本格始動しました。	<div><div>3</div><div>気候変動に具体的な対策を</div></div>
		働きがいの向上 やりがいを感じられる、働きやすい職場づくりや人材育成強化を推進することで、従業員の更なる働きがいの向上を目指します。	従業員一人ひとりが常識や既存のやり方にとらわれることなく変化を起こす取り組みを推奨する組織風土を醸成するため、成功/失敗を問わずチャレンジを称賛する施策を実施しました。 また、従業員に対する成長機会の提供として、それぞれのステージに応じた階層別研修の体系を整理し継続的に実施しています。	<div><div>8</div><div>働きがいも経済成長も</div></div>
		ゼロ労災 労働災害ゼロを目指し、労働災害件数を2025年までに25%、2030年までに50%削減します。(基準年：2018年)	20万時間当たりの労働災害発生件数は、2018年の0.90から2022年は0.85となり、6%減少しました。加工食品事業においては、さらなる労働災害再発防止策の徹底、また、従業員一人ひとりの安全意識向上を図り、労働災害ゼロに向けた取り組みを引き続き強化していくこととします。	<div><div>8</div><div>働きがいも経済成長も</div></div>
人財への投資	私たちは、従業員が安心して働ける職場づくりに取り組むとともに、企業価値の向上に寄与する人財の継続的な育成に努めます。	地域社会への貢献*1 包摂的かつ持続可能な地域社会の発展を目指し2015年から2030年の間に、600億円の投資を行い、従業員が30万時間のボランティア活動に従事することを目指します。	2015年より、地域社会へ513億円を投資し、従業員は勤務時間内に193,521時間のボランティア活動に従事しました。 <div><div><div>2015</div><div>投資額 (億円)</div><div>2022513</div><div>2030600</div></div><div><div>2015</div><div>ボランティア活動従事時間</div><div>2022193,521</div><div>2030300,000</div></div></div>	<div><div>10</div><div>人や国の不平等をなくそう</div></div> <div><div>11</div><div>住み続けられるまちづくりを</div></div> <div><div>15</div><div>陸の豊かさも守ろう</div></div> <div><div>17</div><div>パートナーシップで目標を達成しよう</div></div>
		安心して信頼できる企業ブランドの醸成 国際規格の食品安全マネジメントシステムの運用徹底等の安全管理を推進し、食の安全性の向上を図るとともに、品質に関するコミュニケーションを充実させ、お客様の安心感と信頼感の向上に繋がめます。	食品安全文化を醸成すべく、各事業所における食の安全への取り組み強化と、社内研修の場等を活用し全従業員一人ひとりに対する食の安全意識の向上を図っています。また、社内ネットワークを活用してお客様の声と向き合える環境を整えています。	<div><div>12</div><div>つくる責任つかう責任</div></div>
		環境配慮型包材活用の推進 製品を通じた環境負荷の軽減を目指し、枯渇性資源を低減し、再生可能な植物由来の有機資源の活用を推進します。	バイオマス原料を包材に使用した製品 を3品発売しました。当該原料の使用に加え、外装フィルムの厚みを更に薄くすることにより石油系プラスチック使用量を、変更前の製品と比べ約4.2%削減することができました。 また、紙トレイ製品2品の発売や、包装材の小型軽量化などにより、プラスチック原料の使用量およびCO ₂ 排出量の削減に取り組みました。	<div><div>12</div><div>つくる責任つかう責任</div></div> <div><div>13</div><div>気候変動に具体的な対策を</div></div> <div><div>15</div><div>陸の豊かさも守ろう</div></div>
持続可能なサプライチェーンの構築	私たちは、環境・社会面でのリスク低減に取り組み、お客様に安全で安心いただける製品を継続的にお届けします。	廃棄物発生量 廃棄物発生量を、毎年、生産量原単位*2で前年度を基準とし年平均1%削減します。(国内事業所)	2022年の廃棄物発生量は、生産量原単位で2021年度を基準に3.24%削減となりました。	<div><div>12</div><div>つくる責任つかう責任</div></div>

加工食品事業におけるサステナビリティ

注力分野	目指す姿	中期取り組み目標 (KPI)	各目標に対する進捗	関連するSDGs
持続可能な サプライチェーンの 構築	私たちは、環境・社会面でのリスク低減に取り組み、お客様に安全で安心いただける製品を継続的にお届けします。	<u>温室効果ガス排出量</u> *1 JTグループ環境計画2030におけるGHG排出量の削減に貢献します。 (2030年までにScope1および2のGHG排出量を2019年比で47%削減、Scope3の購入する原材料・サービスに由来するGHG排出量を2019年比で28%削減)	2019年比でScope1&2のGHG排出量を16%削減、Scope3の購入する原材料・サービスに由来するGHG排出量を11%削減 Scope1 および 2 の GHG 排出量 Scope3 の購入する原材料・サービスに由来する GHG 排出量	<div><div>13</div><div>気候変動に具体的な対策を</div></div> <div><div>17</div><div>パートナーシップで目標を達成しよう</div></div>

*1 「地域社会への貢献」および「温室効果ガス排出量」における目標はグループ全体の目標
*2 生産量原単位＝廃棄物発生量／生産量